

ご 案 内

拝啓

ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、弊センターは昭和51年(1976年)10月に発足以来、今年で創立40周年を迎えることができました。この間、関係各位のご指導、ご支援を仰ぎながら、放射性廃棄物の安全かつ合理的な処理処分の実現に求められる様々な試験、研究、開発、調査等を推進し、その成果の普及に努めるとともに、最終処分や再処理等の資金管理業務を着実に実施してまいりました。

このたび、創立40周年を記念して、原環センターがこれまで手がけてまいりました事業、変遷についてご報告させていただくとともに、公益財団法人原子力安全研究協会 技術顧問 朽山修氏とジョンズ・ホプキンス大学大学院 教授 ケント・E・カルダー博士をお招きして、下記概要の特別記念講演を行うことといたしました。

ご多忙中とは存じますが、皆様のご来駕をいただきたくご案内申し上げます。

敬 具

平成28年10月

公益財団法人 原子力環境整備促進・資金管理センター
理事長 高橋 彰

記念特別講演 I

地層処分は人の能動的な管理に頼ることなく、世代を超えた人と環境の安全を確保できる、技術的に実現可能な唯一の選択肢であるが、処分場の立地については未だ公衆の支持を得るに至っていない。今般、この困難を乗り越え、処分の実現が社会全体の利益であるとの国民的な認識を共有するため、処分の安全に関連する科学的特性を示すマップを提示して、これをきっかけとして国民との丁寧な対話を進めることとされた。マップ提示と丁寧な対話を進めることの意味について考える。

講師紹介：公益財団法人原子力安全研究協会
技術顧問 朽山修氏

略歴：東北大学大学院工学研究科助手、助教、同教授、東北大学多元物質科学研究所教授、(公財)原子力安全研究協会処分システム安全研究所所長を経て現職

プ ロ グ ラ ム

開 会 (13:30)

1. 挨拶 (13:30~13:40)
理事長 高橋 彰
2. 原環センターの40年と展望 (13:40~14:10)
常務理事 田中俊彦
3. 記念特別講演 I (14:10~15:25)
地層処分の社会的実現—無知の無知に向き合う—
公益財団法人原子力安全研究協会 技術顧問
朽山 修氏

休 憩 (15:25~15:45)

4. 記念特別講演 II (15:45~17:00)
グローバルな視点で考える日米エネルギー政策
ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院
ライシャワー東アジア研究センター所長 同大学院教授
ケント・E・カルダー 博士

閉 会 (17:00)

記念特別講演 II

現在、世界のエネルギー情勢は小康状態にある。しかし、Brexitや米露の緊張再発などの政治情勢、そして中印など発展途上国の経済・生活の向上を受け、近い将来必ずまた問題化する。米国では来年新大統領が就任するが、そのエネルギー政策はどうなるのか。一方、日本では福島事故以後、原子力はほとんど活用されておらず、「もんじゅ」も岐路に立ち、2018年には日米原子力協定も満期を迎える。複雑な世界政治経済情勢を鑑みながら、日米そしてグローバルなエネルギー・環境政策について考えてみたい。

講師紹介：ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院
ライシャワー東アジア研究センター所長、
同大学院教授 ケント・E・カルダー博士

略歴：プリンストン大教授、戦略国際問題研究所(CSIS)日本部長、駐日米国大使特別補佐官などを経て現職。2014年、日本政府より旭日中綬章授与